



## 「新しい年の始まりにあたり」

校長 丹 能成

令和2年（2020年）がスタートしました。昨年は、保護者、地域の皆様には、本校の教育活動に対し御支援と御協力を賜り、誠にありがとうございました。本年も、教職員一丸となり、「心と心の触れ合う学校づくり」を推進してまいります。何卒、よろしくお願い申し上げます。

2学期の末、3年生の家庭科の授業で『赤ちゃん・幼児触れ合い体験』を行いました。この授業は、乳幼児と一緒に遊んだり、保護者にインタビューしたりすることを通して、乳幼児に対する理解を深め、家庭と家族の役割について学ぶことを目的としています。

授業を行った6日間に、延べ97組のボランティア親子の方々が来校し、授業に参加してくださいました。実施にあたり、御協力くださいました地域の皆様にご心より感謝申し上げます。

乳幼児と触れ合う子どもたちの表情は、優しさと慈愛に満ち溢れていました。授業の感想には、「親に対してありがたい気持ちになった」「それぞれの親の思いがあり、子どもは大切に育てられていると感じた」などの記述が見られ、授業を通して、子どもたちは、自分たちが大切に育てられてきたことや、生命（「いのち」）がかけがえのない大切なものであることを改めて実感したことと思います。

私たちは、父親と母親がいて、この世に生まれてくることができました。しかし、私たちが存在できているのは、両親だけのおかげではありません。両親にも、それぞれに両親がいて、4人の祖父母が存在します。また、4人の祖父母にも、それぞれに両親がいて、8人の曾祖父母が存在します。このように考えると、自分の両親から10代前までさかのぼるだけでも、私たちの「いのち」をつなぐために合計2,046人の先祖が存在することになります。

私たちは、数え切れないほどたくさんの先祖から受け継いできた自分の「いのち」を大切に守り、次へとつないでいかなければなりません。また、両親や家族、まわりの様々な人々に支えられながらぐくんだ「こころ」を、次へとつないでいかなければなりません。

新しい年の始まりにあたり、教職員一同、決意を新たに、自分たちの使命をしっかりと胸に刻み、日々の教育活動に取り組んでまいります。

### 【偶然性】～今ここにいる不思議～

地球の永い永い歴史を考え  
人類の誕生を考え  
そして今ここにいる自分を考えてみる。  
こうやって生きていること  
存在していることが  
何か不思議に思えてくる。  
私の周りに  
いつもの笑顔、いつもの声。  
でも、この人たちとの出会いも  
今、ここに生命を授かっているからこそ。  
星の数ほどの偶然があって  
私が、今ここにいることのも不思議。  
生きていることの有り難さ。

### 【連続性】～ずっとつながっていること～

この生命は私のもの。  
誰のものでもない、かけがえのない私の生命。  
でも、どこからやってきたのだろう。  
— そう  
これは私が受け継いだもの。  
ずっと遠い昔から受け継がれ  
私が受け取ったもの。  
この生命は私の生命だけれど  
私だけのものではない。  
私は生命というたすきを受け取り  
人生というコースを  
走りきらねばならぬ駅伝走者。  
転んでも、立たねばならない。  
くじけるわけにはいかない。  
たすきを私に届けてくれた人たちのためにも、  
そして私のたすきを  
待っている人たちのためにも。